

「税のおかげで」

郡山市立郡山第二中学校 三年 田中 優衣

「お母さんを助けたいんだ。」

テレビの画面にはまだ幼い子供が映っていた。それは、チョコレートの原料であるカカオを育てる兄弟の話だった。彼らは朝早くから晩まで病気で倒れた母のために働いている。長時間働いても収入はわずか。さらに、この兄弟はカカオの実が何になるかも知らない。私たちが普段、当たり前のように学校へ行き、ご飯を食べて、お風呂に入っている間、彼らは生きていくために働いている。このことを知ったとき、私はとても衝撃を受けた。

日本では、小・中学校が義務教育だ。さらに教科書や机などが無償になった今では、学校に通うための負担が減った。その他にも、私たちが風邪を引いたり、けがをしてしまったとき気軽に医療機関を受診することができる。今までそれが普通のことだと思っていた。だが、彼らのように生活が苦しい人々がこの世の中にたくさんいるとわかった。彼らは病院に行きたくても行けない。学校へ通いたくても通うことができない人もいる。この現状を知って、私達が普段、平和な暮らしをできているのは当たり前ではないとわかった。私達には「税」というものがあるお陰で、安心して生活できているのだと改めて「税」のありがたさ、必要さを学ぶことができた。

私はこのような出来事をきっかけに、税金はどのように使われているのかを市のパンフレットやインターネットで調べてみた。国民から集められた税金は道路の建設や修理などの公共事業費や医療費の負担や年金を支払うための社会保険、高齢者、障がい者などの生活を援助するための社会保障費と社会福祉など幅広い場面で使われている。これは私たちが生活していく中でとても重要な役割を持っている。例えば、いつも学校へ行くための通学路が安全なのは、公共事業費があるからだ。

私はもっと身近な税について調べた。それは「消費税」だ。物を買ったりサービスを

受けたときにかかる税だ。今までは、消費税入るから思っていたより高くなってしまふことがあり、ため息が出ることもあった。しかし、私達の生活は税金のお陰で成り立っていて、多くの人々が安全で安心できる生活を送られているとわかり、税金があってよかったと思うようになった。また、研究や新しい開発など将来のために、より安全で明るい世界をつくっていくため税金が必要だとわかった。今、税金は国民のためだけではなく、他国への支援のために使われているとわかった。このように、たくさんの人々の役に立てているとわかり、税を納めることがうれしくなった。

私たちは税金のお陰で毎日学校へ通え、当たり前のように勉強や部活をできている。税についての重要さがわかってよかったと思う。カカオを育てて働いている兄弟みたいな人々の笑顔がもっと増えてほしい。幸せになってほしい。そんな明るい将来のために、困っている人のために税を納めていきたいと思った。